第４回　あすの川西町の小学校を考える協議会　会議録

１　日　　時　平成２６年５月２７日（火）午後７時００分～８時５０分

２　場　　所　川西町中央公民館　視聴覚室

３　出席委員　馬場委員、廣居委員、片倉委員、菅井委員、大木委員、長澤委員
島貫委員、堀越委員、島津委員、佐藤委員、神尾委員、小野委員
加藤委員、金子委員、天笠委員

４　説　　明

⑴前回（第３回）協議会の内容について

⑵児童数の推移について（平成２６年５月１日現在）

⑶教育環境ステージについて

※資料に基づき事務局が説明、質疑なし

５　協　　議

⑴パブリック・コメントの内容について

※意見内容に対する感想等、特になし

⑵学区再編検討のルールと基準について（２つのグループに分かれて意見交換）

【１班】

①平成 28 年度から複式学級発生見込みの学校に対し、１年間の検討期間で可能なのか。同じ地区内（中郡地区における高山小、中郡小など）の考え方への検討も必要ではないか。

②今までは地域が大切と思っていたが、子どものことを考えることが大切だと意識づけが必要。複式学級が発生すると見込まれる 1～2 年前から。

③児童数２０人以下では学校運営不可。完全複式になる前に検討をはじめるほうが良い。

④それぞれの学校の特性を生かして検討すべき時期を探るべき。

⑤若い保護者とその父母の年代によって意見が分かれる。複式も悪くはないということも視野に入れるべきとのことだが、１学年は４０～５０名であるべきでは。

⑥複式学級は避けた方が良いのではないか。ただし学校、地区、地域の問題がある。検討の時間をどのくらいとるのか。各地区違っていても良いが、（１～２年内で）スピーディーにすること。他の基準やルールを明確に。

⑦複式学級に子どもを通わせる保護者はどう考えているのか。その立場で考えは変わってくる。検討時期も変わってくるのではないか。

⑧Ｑ：概ね１０年以内に学区再編を進めるとは、町としてはどういう意味か。

Ａ：合意形成が得られたところから進める、この１０年以内に再編準備ができたところからということ。平成２８年度からの第５次総合計画とも連動してくる。１０年以内に再編にならないから検討をやめるというのではない。（あくまでもルールに従って。）

【２班】

①地域の合意形成は必要。地域の人たちの協力があってこその学校だから。検討していくことを確認してから始めることが大事。地域の方から「検討してほしい」という要請があってはじめて成り立つ。

②検討を始めるきっかけのひとつには、小学校のＰＴＡ活動や授業参観などの際に先生方と話し合う機会があるのではないか。その際に小学校の現状を知り、中学校に進学した際のことなども踏まえて話し合っていくことも、きっかけになると思う。

③すぐに統合した方がよいとの声が多い。幼稚園が統合している中でもあるから。今後は子供が減っていくだけなので早い方がいい。子供がいない家庭でも同じ声を聞く。子供たちを一番に考えたときに、統合がいいという声を聞く。

④数年前から統合の話はあった。きっかけはすでにあった。中学校や幼稚園が統合したのだから覚悟はあると思う。合意形成の仕方を賛成も反対も含めて、地区ごとに話し合う段階ではないか。

⑤検討のきっかけは地域ごとだが、目安は必要。今すぐでは大変だが、数年かけてという形でもいいと思う。

⑥地域のことを優先させるというと祖父母世代の声が出てきてしまう。やはり今の子供たちの保護者世代が地区の中心になるべきである。地区であれ、幼児施設であれ、過半数の人たちが合意すれば検討を進めていっていいと思う。

⑦地区でルールを決めても、ずっと適応されるわけではないないのだから、関心の高い今だからこそ、検討を始めてもいいのではないか。あくまで検討はきっかけで、すぐ統合を決めるわけではないので。

直近の問題として統合について地域に投げかけてみる時期。地域には親世代と祖父母世代との統合への考え方が２つに分かれる。教育委員会に対する考え方を言う時期ではなく、地域の考えを教育委員会に示す時期ではないか。

⑶今年度のスケジュールについて

※次回協議会開催日を７月２６日（土）午後２時からとした

６　その他

なし